

Title	池田龍蔵著 混沌裡の欧洲經濟界
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.9 (1923. 11) ,p.1607(133)- 1608(134)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19231113-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

池田龍藏著

混沌裡の歐洲經濟界

著者池田氏の名は其處女作「無盡の研究」によつて既に早く學界に知られてゐる。氏は義塾卒業後一時實業界に出でて金融の實務に携はつてをられたけれど常に其學究的態度を失はれず一意經濟現象の科學的研究に没頭せられて亦他に餘念なき有様であつた。而して其研究の結果は之れ亦曩に二三の書として既に世に問ふ所があつた。

最近氏は米國に遊び後更に轉じて歐洲に益々其研究を進められ最近業を終へて歸朝せられた本書「混沌裡の歐洲經濟界」は則ち歐洲經濟界の現狀に對する氏の觀察研究の結果を公けにせられたものである。本章第一編は専ら今日歐洲全般の經濟生活の混亂してゐる其原因及び其現象を論ずる爲めに宛てられてゐる。其第一及二章

に於て歐洲經濟界混亂の原因を論じ、第三章以下八章に到る各章の下に於ては歐洲全般の金融組織、生産組織、流通組織及消費組織が現在如何に破壊せられてゐるか、又如何にして破壊せられたかを説明してゐる。

第二編各論第一章より第三章に到る各章の下ではそれぞれ白耳義、波蘭、チエツクスロバキア、埃太利、匈牙利、ユーゴスラビア、伊太利の各經濟を論述してゐる。而して最後に附録として現代歐洲に於ける反動的勢力に論及して筆を擱かれたのは、時偶々反動的勢力熾烈であつた當時歐洲に滞在せられた氏として尤もなことを思はれる。

第一編第二編を通して見られるのは氏が論を行るや必ず一つの現象に付てその因果關係を述べて之を證明するに一一數字を以てするの勞を厭はなかつたことである。吾人は此爲めに貴重なる幾多の數字と材料を本書の中に發見することが出来る。よし議論や原因に關し時に著者と

Rand School of Social Science N. Y. なるもの
が出されたが、果して爾來引續き刊行せられて
居るや否やを知らぬ。最近頻りに普及に努めつ
ゝある Die Internationale Presse-Korrespondenz,
Berlin SW. 48 は固より價値ある材料を含むこ
とが多大であるけれども此の週三回發行の報導
を毎號怠らず、通關するといふ事は専門家以外
に取つては難事であらう。故に標記の年鑑は此
等の缺陷を補ふものとして大に世の歡迎を受く
べきものである。固より本年鑑は共產主義イン
タナシヨナルの一事業であつて、明に其序文に
も記してある通り、共產黨の同志に必要な報
導を授けると共に、諸般の事實に對して共產主
義の見地から下した判断を傳へることを目的と
するものであるから、内に含まれてゐる報導が
皆公平であるとは云はれないが、併し識者は共
産主義者の誇張と其反對論者の誇張とに既に慣
れて、多くの場合に其報導の眞實を容易に識別
する能力を養ひ得た今日に於ては此事は必しも

深く憂ふるに足るまい。本書は全卷を「一般的
部分」と「ソヴェト共和國」及び「ブルジョワ的諸
國家」の三部に大別し、第一部では第一、第二、
第三インタナシヨナルの過去及び現在に關する
記述評論と最近世界經濟に關する記事統計を收
め、第二部は三百頁に亘つて勞農露西亞に關し
第三部は世界の未だ共產主義化せざる六十餘國
の個々に就て其政治經濟に關する記事統計を收
めて居る。本書序文の日付は一九二二年七月と
なつて居るが本追補の項下に獨逸の舊右翼社會
民主黨と獨立社會黨との合同(昨年九月)が報導
せられて居るのを以て見れば、實際の發刊は七
月よりは餘程遅れたものであらう。當事者が其
業に慣れて此よりも更に正確精緻なものが今年
も編纂せらるゝならば、其利益に浴するものは
獨り共產主義者のみではない (小泉信三)

學派 *ponocratie* の、土地を以て價値の淵源と爲す學派 *physiocratie* との兩者を併せて、土地と勞働との兩者を以て價値の淵源と爲すの學派に屬する人を指すものなること (O. Effertz, *Le Principe ponophysiocratique et son application à la question sociale. Leçon d'ouverture faite à la Faculté de droit de l'Université de Paris, 1913. p. 15.*) を知り、粗忽の罪の大なるを覺ゆ。今茲に右の箇所を左の如く訂正して讀者に謝す。

百八十七頁八行目より九行目にかけて「彼を呼んで *Physiocrates* の末流 (*Ponophysicrate*) となす者ある所以は茲に在る。」とあるを訂正して「彼を目して *ponophysicrate* と呼び得る所以は茲に在る。」となし、同時に右の一句の前に「Smith の *ponocratie* (O. Effertz, *Le principe ponophysiocratique etc., p. 15.*) の *Physiocrates* の *physiocratie* もは Garnier の同時に採用する所となつた。」の一句を挿入す。

(二)、此の機會を利用して、原稿淨書の際に

第十七卷 (一六〇九) 新刊紹介

誤つて書き洩したる文句を左の如く挿入することを許されたく思ふ。

百九十五頁十一行目、「唯、彼の指摘する此の效用の概念は、」の次に、「水及びダイヤモンドの例を擧げて、使用價値〔即ち效用〕の大小が交換價値の大小と正反對なる場合あることを指摘して居るの一事 (p. 30.) の外には、」を挿入す。

二百二頁三行目、「吾人は、」の次に、「此の引用文によつて、Smith が其の事實あることを指摘するに止めて未だ其の理由を示すに至らざりし現象が、Bastiatによつて説明せられ展開せられたるを見ると同時に、」を挿入す。

(三)、猶は、百九十二頁十三行目の中央に「定著」とあるは、「定著」の誤りなり。

(増井 幸雄)

見解を共にすることの出来ない読者がありとしても本書に掲げられた事實と数字は厳として動かない價値を有し且つ讀者を益すること大であると思ふ。

特に第二編の歐洲新興國其他小國の經濟事情は我國に於ては之を知る不可能でないとしても甚だ困難であると思ふ。然るに本書は之れ皆著者が親しく自ら其地に到り實際に付て研究せられた結果で讀者は容易に此等新興國の經濟一般を會得することが出来る。特に氏がかかる小國の經濟狀態全般を僅かの數に納め而も要を得た頁手腕は驚く可きものがある。

要するに本書は僅々百六十九頁に過ぎないけれどもこれによつて現代歐洲經濟界の混沌狀態を一讀の下に了解せしめんとした氏の努力は充分に或功してゐるものと思はれる。特に本書の序文の代はりとして置かれた「歐洲に於ける獨立國概説」は今日一般人士の必讀の文字であると共に、其結論として置かれた反動的勢力を論

じて「かかる一時的現象たる反動を過信してはならぬ。……これを大勢と速斷するは短見者流たるを免れぬ」と云つて反動期に歐洲に在りし一部のものを誠しめてゐるのは評者の亦全然賛同する所である。

評者は座ながらにして歐洲の現狀に親しみ時代に後れざらんとする欲する一般讀者に對して切に本書を一讀せんことを薦むるものである。

(向井 鹿松)

訂 正

(一)、予は、本誌本年七月號の拙稿「アダム・スミスと其後の佛蘭西經濟學說」中に於て、「*po-nophysocrate*」なる一語をば語義を充分に詮索することなくして「*Physiocrates* 末流」と解するの誤りを冒せり(一八七頁九行目)。右の拙稿校正濟の後に至つて、此の語は *Otto Hertz* の自ら創説する一學派と所説を同じうする者、詳しく云へば、勞働(*Ponos*)を以て價値の淵源と爲す